



『月に3冊、読んでみる?』

(酒井 順子／著)

東京新聞 019.9 / 冊 /

<https://ili>

「月に何冊くらい、本を読むのですか？」と聞かれると、答えに詰まります。と著者は、「はじめに」書いていた。実際、私自身1冊も読まないときもあるし（この欄のために頑張って読むかも）。読書が趣味ならば何冊も並行して読む人もいるし、読書日記とかつけて、年間出版される数ある中からオススメの1冊を他人に紹介できたらなんと良いことでしょう。酒井順子さんのチョイスはおもしろい。古典から小説・エッセイ、マンガまで幅広くテーマごとに3冊ずつ紹介されている。「アイドルとは何か」「トイレタイムのお供には」など「そうか、こうくるか」という本に出会える。

『楽観論』

(古市 憲寿／著)

新潮社 304 / 冊 /

<https://ili>

タレントとしてだけでなく、作家としても人気の古市さんの新刊。タイトルだけだと精神論的なことを書いてるのかと思いきや、各テーマごとに彼の特徴である現代風でドライな発言は、ひねくれているなと思うこともあるが、そういう捉え方もあるなと新しい見方が広がります。テレビだけでは伝わらなかった、主張や多様な思考が古市節だと思える一冊でした。

『その気遣い、むしろ無礼になってます!』

(三上 ナナエ／著)

すばる舎 336.4 / ミ /

<https://ili>

相手を気遣い、相手のことを思ってやったこと、言ったことが実はありがた迷惑だったり逆に気を使わせてしまっていたり…。この本を読むとまさに自分ができてしまっていたことがあり、身につまされました。

著者自身の経験から考えられた具体的な沢山の事例がのっており、自分も疲れず、受け取る相手側の気持ちに沿った気遣いの仕方のヒントが書かれています。大人として仕事でもプライベートでも身につけたいマナーの参考になりそうです。

『カイメン』

(椿 玲未／著)

岩波書店 483.2 / ツ /

<https://ili>

カイメン、この興味深い生き物。脳も、心臓も、腸もない、おおよそ生き物のなりをくつがえず、なんとも不思議な生命体。海綿動物とは一体なんなの？

古代ギリシャでは、カイメンから薬をつくったり、避妊具として使われたり、歴史も古いし用途も様々。自然のスポンジ、すごくない？

そんなカイメンのことが詳しく書かれている。もちろん分かりやすいし、子どもから大人まで、興味を持って読める一冊！実際に岩場でカイメンを探して観察したり実験するのもオススメ！

『日本カンパニーキャラ&シンボル大全』

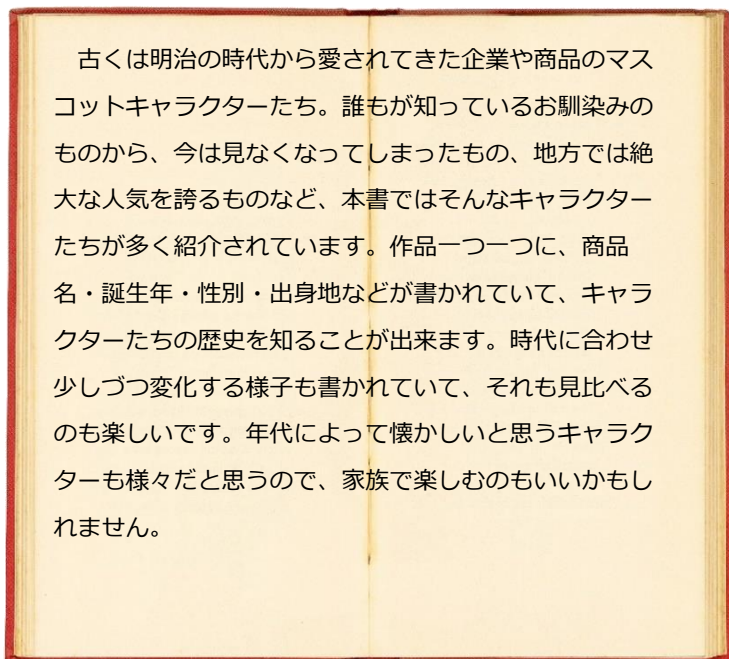
辰巳出版 674.3 /ニ /

『きりえや偽本大全』

(高木 亮/著)

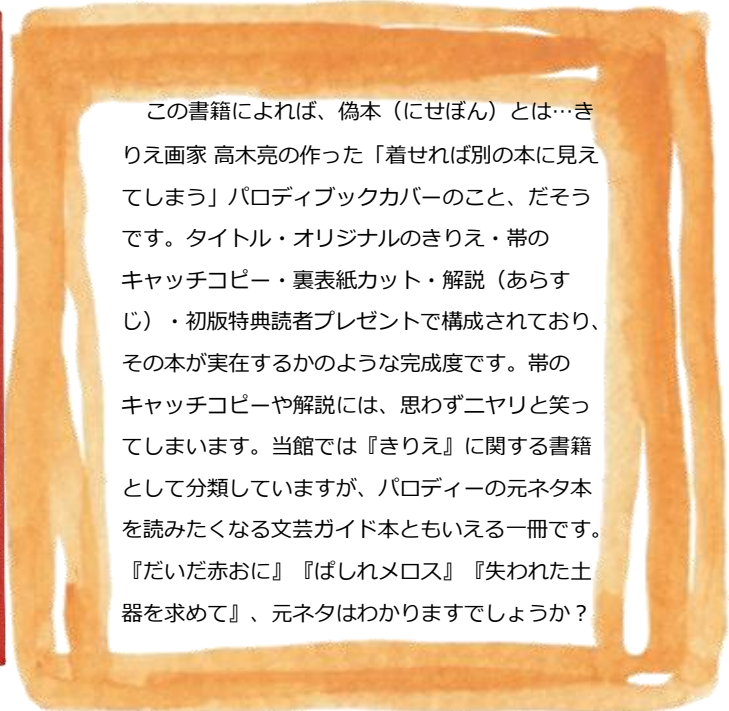
現代書館 726.9 /タ /

<https://ili>



古くは明治の時代から愛されてきた企業や商品のマスコットキャラクターたち。誰もが知っているお馴染みのものから、今は見なくなってしまったもの、地方では絶大な人気を誇るものなど、本書ではそんなキャラクターたちが多く紹介されています。作品一つ一つに、商品名・誕生年・性別・出身地などが書かれていて、キャラクターたちの歴史を知ることが出来ます。時代に合わせ少しずつ変化する様子も書かれていて、それも見比べるのも楽しいです。年代によって懐かしいと思うキャラクターも様々だと思うので、家族で楽しむのもいいかもしれません。

<https://ili>



この書籍によれば、偽本（にせほん）とは…きりえ画家 高木亮の作った「着せれば別の本に見えてしまう」パロディブックカバーのこと、だそうです。タイトル・オリジナルのきりえ・帯のキャッチコピー・裏表紙カット・解説（あらすじ）・初版特典読者プレゼントで構成されており、その本が実在するかのような完成度です。帯のキャッチコピーや解説には、思わずニヤリと笑ってしまいます。当館では『きりえ』に関する書籍として分類していますが、パロディーの元ネタ本を読みたくなる文芸ガイド本ともいえる一冊です。『だいだ赤おに』『ぼしれメロス』『失われた土器を求めて』、元ネタはわかりますでしょうか？

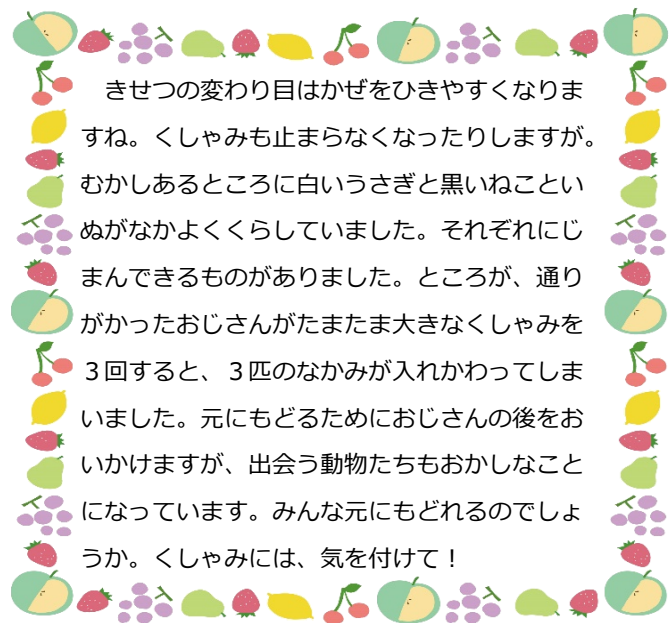
『くしゃみおじさん』

(オルガ カブラル/作)

岩波書店 933 /カ /



<https://ili>



きせつの変わり目はかぜをひきやすくなりますね。くしゃみも止まらなくなったりしますが、むかしあるところに白いうさぎと黒いねこといぬがなかよくくらしていました。それぞれにじまんできるものがありました。ところが、通りがかったおじさんがたまたま大きなくしゃみを3回すると、3匹のなかみが入れかわってしまいました。元にもどるためにおじさんの後をおいかけますが、出会う動物たちもおかしなことになっています。みんな元にもどれるのでしょうか。くしゃみには、気を付けて！

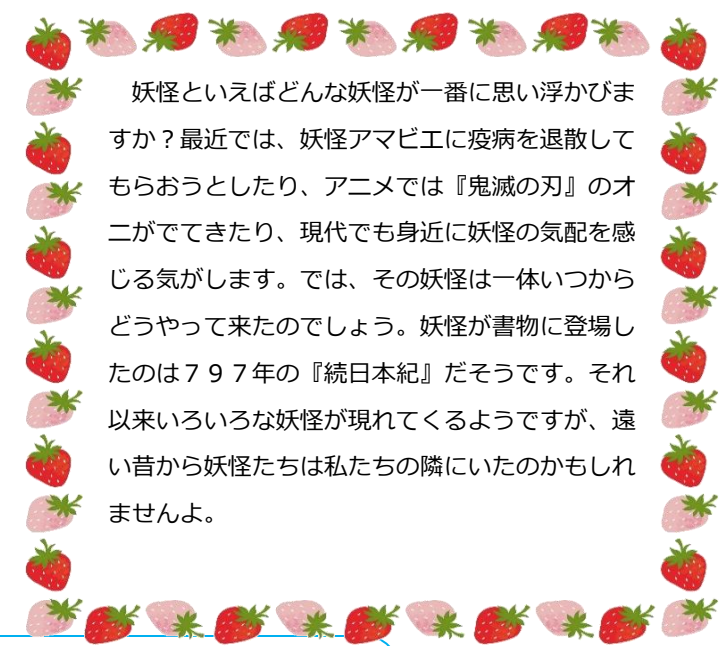
『妖怪がやってくる』

(佐々木 高弘/著)

岩波書店 388 /サ /



<https://ili>



妖怪といえばどんな妖怪が一番に思い浮かびますか？最近では、妖怪アマビエに疫病を退散してもらおうとしたり、アニメでは『鬼滅の刃』のオ二がでてきたり、現代でも身近に妖怪の気配を感じる気がします。では、その妖怪は一体いつからどうやって来たのでしょうか。妖怪が書物に登場したのは797年の『続日本紀』だそうです。それ以来いろいろな妖怪が現れてくるようですが、遠い昔から妖怪たちは私たちの隣にいたのかもしれないよ。

問い合わせ先

苅田町立図書館 ☎093-436-0946

開館時間：9：30～17：30（木・金は19：00まで。本館のみ）

ホームページから蔵書検索もできます



(2021.10.5発行)